

氏名	渡 邊 克 仁		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学位授与番号	甲 第 387 号		
学位授与の日付	昭和 49 年 3 月 31 日		
学位授与の要件	医学研究科生理系生理学専攻 (学位規則第 5 条第 1 項該当)		
学位論文題目	内肛門括約筋におよぼす粘膜内反射の影響		
論文審査委員	教授 西 田 勇	教授 田 中 早 苗	教授 砂 田 輝 武

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

本研究は肛門括約部の弛緩にどのような反射性調節がおこなわれているかを研究したものである。下部大腸および内・外肛門括約筋の支配神経が全て健存している状態で、下部大腸を伸展刺激すると、口側の下部大腸の運動の高進および肛門括約部の弛緩を認めた。ついで外来支配神経を全て切断しても、また下部胸髄以下の脊髄を破壊した状態でも、伸展刺激により肛門括約部は弛緩した。また下部胸髄以下の脊髄を破壊した状態で下部大腸を (a) 電氣的に、(b) ニンニク溶液で化学的に、(c) 綿球の摩擦により機械的に刺激しても同様に下部大腸の運動が高進し、肛門括約部の運動は抑制された。これらの効果はテトロドトキシンおよび神経節遮断剤の適用により消失した。この結果は壁内神経叢を中枢とする粘膜内反射によって、内肛門括約筋が弛緩したものと考えられ、排便反射にこの粘膜内反射が関与していると結論した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、犬の下部大腸を伸展刺激する際見られる口側の下部大腸運動の高進および肛門括約部の弛緩現象につき、その発生機序を研究し、排便反射に壁内神経叢を中枢とする粘膜内反射が関与するという重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。